早川　功

令和5年(2023) 2月28日

click☞　Isao Hayakawa 集まれ合唱！
facebook公開グループ「集まれ合唱！」に連載したものをまとめました

合唱の本流であるべき混声合唱が日本で立ち遅れたのはひとえに学校教育の歴史によるものでしょう。旧制中高や大学が男女別の現場であったこと、それは戦後の一時期まで当然とされていたのです。

具体的な例として、1948年に始まった全日本のコンクールの大学部門で、混声合唱団が金賞を獲るのは1975年の福永陽一郎指揮の法政アカデミー合唱団まで皆無でした。法政はその後77年まで３年連続金賞を受けるのですが、それは私の２～４年の在籍期間で、学生指揮者としての重圧に発表の時に胃の痛い思いをしたことが思い出されます。

一方、1956年に職業合唱団として東京混声合唱団が組織され、また一般に於いては1960年代以降多くの混声合唱団が誕生していました。中には戦前から存続する神戸中央合唱団のような老舗もありますが、1963年に浅井敬壹が立ち上げたのが合唱団京都エコー。浅井氏は同志社グリークラブの学生指揮者時代、半ば強引に福永先生を同志社の指揮者に引っ張ってきた張本人で、自らは社会人となると同時にアマチュア合唱指揮者として京都エコーを率いることになりました。「京都から世界一の合唱団を」という志で二足の草鞋を履きながら、全日本コンクールでは1980年から99年まで20年連続金賞受賞という金字塔を打ち立てたのです。

その浅井氏の初期の大きな仕事の一つが福永陽一郎監修による東芝レコード「現代合唱曲シリーズ」の下振りでした。日本アカデミー合唱団という団体が実態は京都エコーであり、そこにエキストラ・メンバーが参加して録音に臨むというシステムの京都での練習指揮を任されていたわけです。そのシリーズから1971年に録音された三善晃の1962年の代表作「嫁ぐ娘に」。指揮は当然福永先生の予定でしたが、前日に体調不良で高熱を発し、急遽代役で浅井氏が振って録音されたものです。当時の浅井氏は「とんでもないことになった。しかし「嫁ぐ娘に」に掛けてきた福永先生のためにも作れるだけのものを作らなければならない」と全力を注いだと録音ノートに記しているが、その意気に答えた京都エコーの熱演がここに聴くことができます。はからずもメジャー・デビューとなった浅井氏の渾身の名演。

混声合唱組曲「嫁ぐ娘に」
作詩：高田敏子
作曲：三善晃
指揮：浅井敬壹
合唱：合唱団京都エコー

https://www.youtube.com/watch?v=0MvbAN6LKJQ

【シリーズ　バックナンバー】

1　男声合唱組曲「枯れ木と太陽の歌」
2　男声合唱組曲「月光とピエロ」
3　男声合唱組曲「柳河風俗詩」
4　女声合唱組曲「美しい訣れの朝」
5　女声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」
6　混声合唱組曲「嫁ぐ娘に」
7　混声合唱、ヴィブラフォン、ピアノのための「動物の受難」
8　混声合唱組曲「島よ」
9　男声合唱組曲「水のいのち」
10　男声合唱のためのカンタータ「土の歌」

Back
音楽・合唱TOPへ

Home
HOME PAGEへ